

平成21年度 社会福祉審議会児童福祉専門分科会
「(仮称) うつのみや子どもプラン策定会議」 議事録

1. 日 時 平成21年10月30日(金) 午後3時00分～午後4時40分
2. 場 所 宇都宮市教育センター コミュニティホール
3. 議 事 報告事項
(1) (仮称) うつのみや子どもプラン策定に向けての課題の総括について
協議事項
(1) (仮称) うつのみや子どもプランの基本的な考え方について
(2) (仮称) うつのみや子どもプランの施策体系(案)について
4. 出席者
【分科会長】伊達悦子委員
【職務代理】直井克仁委員
【委 員】福田智恵委員, 江連晴夫委員, 加藤佳子委員, 安納ミヤ子委員, 石嶋 勇委員,
今井恭男委員, 増田宗夫委員, 長谷川英一委員, 菊嶋貴之委員, 野田幸枝委員,
宇山房子委員, 青木孝之委員, 沼尾順市委員, 倉益 章委員,
【事 務 局】〔子ども部〕鈴木 厚部長, 手塚敏男次長
〔子ども未来課〕荻田 修課長, 篠原 豊主幹, 角海正育課長補佐, 角田 浩総
括主査, 佐藤 豪主事
〔子ども家庭課〕三好俊也課長, 吉澤正浩係長, 高瀬保男係長
〔保育課〕青柳雅夫課長, 伊藤仁美総括主査
〔子ども発達センター〕塙 雅彦所長, 平石紀子係長, 飛田知恵総括主査
〔生涯学習課〕鈴木孝美課長, 小林正典係長
〔生活安心課〕須藤一彦係長
〔商工振興課〕鈴木順子係長
5. 公開・非公開の別 公開
6. 傍聴者数 1名

発言者	内 容
事務局	1 開会
事務局	会議に入る前に、会議の公開非公開についてお諮りしたい。本市においては、公正かつ透明な市政運営を図るため、会議は原則公開としている。本日の会議内容については、情報公開条例に定める非公開とする基準に該当していない。このことから公開とすることによろしいかお諮りする。
全委員	異議なし
事務局	本会議については、公開とする。 (傍聴人入場)
鈴木厚部長	2 子ども部長挨拶
伊達悦子会長	3 分科会長挨拶
	4 報告事項 (1) (仮称) うつのみや子どもプラン策定に向けての課題の総括について
伊達悦子会長	事務局から説明を。
事務局	(事務局説明)
伊達悦子会長	質問・意見はあるか。
伊達悦子会長	まずは口火を切りたいと思う。資料1の課題の総括の中の【家庭や地域における子育て支援】で、ケースマネジメントという言葉が使われているが、これについては何か具体的にイメージしているものがあるか。
事務局	ケースマネジメントというと、福祉の分野では高齢者の介護保険の制度が導入されたときのケアマネジメントをイメージするかと思うが、子育て関係のサービスを提供するときに、こういうサービスや施設があるといった情報提供をするが、そのほかに例えばこの保育園では相談を受ける附属の設備があり、そのサービスを受けるまでのトータル

伊達悦子会長	<p>的な援助を行うことをイメージしている。</p> <p>ケースという言葉が表すとおり、似通った問題を抱えているということがあるが、抱えている人が異なれば違う問題だと捉えたマネジメントが必要だと思う。ケースワークとかカウンセリングはそういう前提に立つと思うが、ケースワークより高いマネジメント能力が求められると思う。マニュアルを作って、それに沿ってというようにはいかない部分が本当に多いと思うので、その辺を考えに入れておいてもらいたい。</p>
福田智恵委員	<p>【仕事と生活の調和の実現への支援】というところで、仕事と生活の調和のとれた働き方の実現への支援という表現があるが、働き方は労働者側で、意識を変えてもらいたいのは働かせる側の企業・経営者で、そちらにも意識を持ってもらいたいので、働かせ方といったことを並列で表現するのが良いのではないか。確かに働き方というと一般労働者だが、働く側の意識をこれから変えなければいけないと思うので、そういう意味では非常に良いフレーズなので、課題の中には働かせ方が変わらなかったという視点もあると思うので、その辺も入れていただければと思う。</p>
事務局	<p>働かせ方というか企業の取組みにおいて、例えば企業のトップが子育てしているまたは出産育児を控える社員に対して、どのように支援していくかは一つ目の項目でイメージしており、二つ目は働く労働者側の意識を変えて子育てかかわっていくというイメージである。</p>
伊達悦子会長	<p>この辺が非常に難しいところで、働かせ方というところで何か良い表現はないか。働く側は相手の要請に応じて働くので、その辺が充実しないと難しい。</p>
福田智恵委員	<p>ワークライフバランスということがずっと言われていて、先日ときめく未来へ参画会議の実行委員をやらせてもらったが、その分科会の中で出てきたのが、制度があってもそれを利用できる風土がないという話が合った。企業が制度は作ったが、使う側がそれを使える雰囲気になく、なかなかそれを回りに認めてもらえないということがあって、なかなか浸透していない状況にある。企業側が制度を作っても、その一歩先のところの課題が大きいと思う。</p>
伊達悦子会長	<p>ひとり親家庭の自立支援のところだが、こういう子どもの施策の支援</p>

	<p>というときに、どういう家庭像を描いて施策を練るかということが鍵になると思う。両親がそろった安定した条件を備えた家庭は少なくなって、そうではない家庭が非常に多くなった。そうすると、プランを作ってもそれがどの家庭にも適用されるとは限らないという状況が多いということがひとり親家庭の研究をしている研究者から指摘が出ている。先ほどのケースマネジメントという言葉もそういうことが頭にあった。</p>
伊達悦子会長	ほかになれば、次に進みたい。
	<p>5 協議事項</p> <p>(1) (仮称) うつのみや子どもプランの基本的な考え方について</p> <p>(2) (仮称) うつのみや子どもプランの施策体系(案)について</p>
伊達悦子会長	<p>(1) (仮称) うつのみや子どもプランの基本的な考え方についてと</p> <p>(2) (仮称) うつのみや子どもプランの施策体系(案)については関連があるので、続けて事務局から説明を。</p>
事務局	(事務局説明)
伊達悦子会長	具体的に施策・方向性が示されているが、質問・意見はあるか。
伊達悦子会長	確認だが、対象とする子どもの年齢で子どもという表現でよいのか。
事務局	議論のあるところだと思うが、本計画では子どもとして0歳から35歳未満としているが、計画書の中の文章では使い分けることを考えているが、まだその辺ははっきりしていない。
伊達悦子会長	砕けた表現をすればニート対策やフリーター対策は自立支援というのはそういうことを想定しているのか。
事務局	その通りである。
直井克仁委員	地域という言葉がだいぶ出てきているが、地域とはどういう範囲でどのくらいの広さなのか。今は子ども会などの活動もあまり盛んではなく、自治会などもあまり関わっていない。そういった中で、どのくらいの範囲を想定しているのか。

事務局	<p>様々な施策を推進していく上で、地域の捉え方は違うと考えている。地域社会全体といたり地域社会といたりといろんな言葉を使っているが、社会全体や地域社会全体という言葉を使ったときには広く捉えれば日本全体ということも考えられる。例えばワークライフバランスを推進するといった視点からすると、宇都宮の子育て家庭の親が必ずしも宇都宮の企業だけに就職しているわけではないので、宇都宮の外に出る、または東京などに行くということもあるので、施策によっては日本全体ということも捉え方もあると思う。ただ、多くは子ども達やその家庭が暮らす身近な地域という意味で使っている。それは自治会であったり育成会であったり子供会であったりというイメージが身近な地域という意味では一番多いと考える。宇都宮全体を地域という言葉で表現しているものもある。施策によっていろいろな意味に使い分けることになる。基本目標の3番目の地域というところに家庭という言葉も含めて考えている。2番目の家庭のところは、子育てに直接的に関わる家庭というイメージで使っている。3番目の地域に含まれる家庭は、子どもを育てる家庭として8番の施策の(3)のふれあいのある家庭づくりの推進とあるが、この中では親力の向上や家庭教育の充実といった施策のイメージを持っている。子どもの健やかな育ちのために親や家庭がどうやって関わっていくかという視点を3番目の目標の中で考えていくというイメージである。2番目は直接的な子育てというところで整理している。</p>
伊達悦子会長	<p>地域ということで質問があったが、加藤委員その辺で何か発言はないか。</p>
加藤佳子委員	<p>自分が子どもの時のことを話すと時代錯誤になるが、兄弟3人5人が当たり前の世界で育ってきた。5人も子どもがいると、家の中で遊ぶとうるさいため外で遊ばされた。近所についても同様の状態なので、子供同士の中で年齢幅も広く集団で遊ぶことも多かったのですが、そういう中で教わることとかがあったが、今はそういうことがなく子どもの声が外で聞こえることがあまりなくなっている。そういう中では唯一それができるのは学校の中かと考える。子どもたちも学校の先生も忙しく、なかなかそういう時間を取るの難しいと思うが、やはり地域の働きというのは任意団体で何かを行おうとしても、何かあった時にどうするのかということが先に来てなかなか活発な活動ができない中では、皆が協力していかなければ何もできない状態になってしまう。いろいろな年齢層が集まる中から覚えることとかが心も体も健康に育つという一つの方向性が見えてくると思うので、その辺のところ</p>

伊達悦子会長	<p>にもう少し力を入れていったほうが良いと思う。</p> <p>学校という話があったが、資料2のP2の4の子どもの年齢というところをみると、学童期・思春期、もしかすると青年期の前半の部分くらいまで学校が発達の舞台になる。学校という場で育っていくことになる。そういうライフステージになるが、その辺をこのプランの中でどういう風に考えてくかというあたりで、何か意見はないか。</p>
石嶋勇委員	<p>これらをいかに実践していくかが高いハードルだと思う。特に地域という話題が出ていたので、地域の定義は分かった。自分たちが住んでいる身近な場所という捉え方をしているが、学校行事をしていく上でも地域の方々に子育て支援をしてもらうとか、学校・幼稚園・保育園を含めてだが、近隣の地域の方々や自治会の方々に支援・協力をしてもらうことが行事を進めていく上で必ず出てくる。その時に地域の方々が学校や幼稚園の経営にどれほど理解を示してくれるかということ考えたときに、かなり難しい。例えば今年の学校と地域が連携している行事だが、子どもたちがとても楽しみにしている夏祭りにおいて、事前にその日の夜は花火を上げるということを毎年のことなので近所の方は分かっているが、それをわざわざ学校に連絡を入れて今日花火をやるなということで、校長が頭を悩ませていたが、実行委員と皆で協議をして子どもたちが楽しみにしているのでやろうということになった。例えば運動会の花火を上げて、うるさいからやめろということや子どもたちが公園で遊んでいるのがうるさいということで、そういう環境をつくるというよりそれを壊してしまうという方々がいることも事実。そういう意味で、子どもプランをそういう方々にどういう風に届けてくのか、そして協力をいただくのか、子育てまで持っていくのがハードルが高いのではないと思う。学校や保育園や幼稚園に協力や指導やお願い事は可能だと思うが、地域というのは非常に難しいと思う。</p>
伊達悦子会長	<p>朝日新聞に学校行事、幼稚園・保育園の行事に対するクレームが載って、それに対する反論が載って、両方の意見に対する意見が出てということで紙上討論会というようなことがこの間掲載されており、非常に溝が深い対立だと思った。また、新聞配達の方が道路に張られたワイヤーに引っかかって亡くなったか怪我をしたかということがあったが、みんなで共存し難い状況になっている部分があり、そこに地域を持ってくると絵に描いた餅になってしまう。願わくば良いプランであり実効性があるものであってほしいと考えると、その辺で生み出せ</p>

<p>今井恭男委員</p>	<p>る知恵なら生み出しておきたいということで、意見をと思う。スクールカウンセリングで中学校に行っていると、職員室であの親の子どもとしては良くできているとっていた先生方が印象的であったが、やはり学校は親をターゲットにしながら教育をしていかなければならないという時代になってきている。つまりそのくらいのスパンを見ないと、その若い親たちがどういう社会で育ってきたかということを見ながらやっていかないと学校教育は成立しないという状況だとすると、できればこの計画も10年ということなので、せっかくつくるのならその辺がうまく機能するよなということ、夢を描くのだからその辺で委員の皆さんから何か意見はないか。</p> <p>目標や理念、概念的なものや方向性に間違いはないと資料を見る限り推測するが、資料3の右側について課題の説明があったが、今日までの子育て・子育ち等々、地域の問題も出されたが、課題に新鮮味が帯びていない。いわゆる今日までの課題を引きずっているような見方をした場合、過去10年を遡ってみても同じような課題が継続されているのではないかという風に思う。ただそれが間違っているのではなく、それだけこの課題が解決されずに、あるいは充足されずに今後も大きな課題として引きずっていくというような見方をした場合に、次回の会議になると思うがこれを具現化していくための具体的なものを打ち上げていかないと、このプラン自体が絵に描いた餅になってしまうのではないか。というのは10年前と同じ課題を引き継いでいるということは、今日的課題も解決していないということになる。このことを十分捉えた上で、次にどういう手を打っていくのかを具体的に考えなければ、このプランの意味がなくなってくる。自分自身の認識としては、子育て支援ということでは充足率の問題だが、認定子ども園が実現されれば、もっと待機児童の数が減って良いし、一つの解消策になると思っていたがそれも進まないという現実がある。その現実の壁をどうやって破っていくかが、今後の大きな基本理念から実効性のあるプランに組み立てていくという部分では最も大きなテーマ、課題だと思っている。国の今後の流れで行くと、高齢問題も保育問題もそうだが、今まで国と地方との関係という部分で例えばいろいろな意見が出ていると思うが、予算・法的な問題や課題などがあり公設の保育園がなかなかできないなどいろいろな事実がある。だが今度はその箍を緩めようという流れに変わってきている。変わろうとしているわけだから、今後試されるのはいかにして実現性ややる気がある行政運営をできるか、実効性があるかどうか問われる時代になってくるのではないか。10年プランで当然ローリングをしていくことに</p>
---------------	---

	<p>なるかと思うが、実効性・実現性のあるものに組み立てていく必要があるのだろうと考える。求められる課題というのは従前から同じものを引き継いでいく、あるいは未来に引き継いでいくということになると、一歩前進する必要がある。今回の課題が次回までに一項目一項目消えていき、新しい課題が追加されることが理想的であるという強い希望を込めて、総括的であるが意見とさせてもらう。</p>
伊達悦子会長	<p>他の委員から意見はあるか。</p>
倉益章委員	<p>資料3から非常にすばらしいプランが出来てきていると感じるが、これから中身を詰めていくので抽象的になっていると思うが、これらはある程度行政からいろいろ意見を出してつくられていると思うが、乳幼児期から青年期までライフステージが分かれていると思うが、それぞれからアンケートなどを実施し、それぞれの段階で何を望んでいるかということを集計していった中で、例えば子育てにしても親が何を望んでいるのかということが出てきて、そういった中で優先順位を付けていき政策を実現していければもう少し具体的などころが見えてくると思う。</p>
事務局	<p>アンケートについては、このプランを策定する前に就学する前の児童を持つ保護者、就学児童を持つ保護者、15歳以上の青少年を対象にニーズ調査を行っており、その辺を十分活用して素案をつくっていきたい。</p>
伊達悦子会長	<p>先ほど地域ということで直井委員の発言もあったが、歴史的な経過を辿れば、大家族時代というのは生きていくための様々な機能というのはそれぞれの家庭の中あるいは地域にあった。向こう3軒両隣というわけではないが、5人組というのはそういう良い例だと思う。大家族で補っていく、けれどもそれが小家族化したということで家庭機能が縮小した、地域も当然かつてのコミュニティではなくなった。そうすると本来家庭の中にあつた機能、あるいは小さな地域社会にあつた機能はどうなったのかといえ、これを行政が担うようになったのが現代である。そうするとそれにはき違いが出てきて、行政が何でもしてくれるべきだという発想が出てくると、家庭機能が低下する、地域機能も低下する。そういう中で行政はどういう風に立ち回っていったらよいかという大変難しい立場になってくるが、それだけに真剣に考えなければならず、行政が何でもやればよいということではないはずで、そこで何か新たな知恵を生み出していかなければならない。これ</p>

	<p>から事務局が大変な仕事に取り掛かるわけだが、決して批判と受け取らずに切磋琢磨しながらアイデアを出し合うということで、意見を出してもらえればと思う。</p>
加藤佳子委員	<p>基本施策3の「障害のある子どもの健やかな発達を支援します」というところで、家族支援の推進という文章が出てきて大変ありがたいことだが、専門的な方の支援で(1)(2)については自分が経験しないことを教わることによって、こういう方向性があるということで親は安心すると思うが、それだけではこの障害のある子を育てていく自身にはつながらない。そういう部分では自分たち親が経験したことを子育てが終わりかけていて、若い母親とかと接するとその人達は同じことで悩んでいる。本当に悩んで精神的に疲れている親にとって家族支援はありがたいが、違う立場の人は心の中に染み入るものがなかったりするもので、そういうときに自分たちが若い母親と触れ合うときに、母親の今の悩みを世間話の中から聞いたりして、自分もそういうことがあったけれども、この部分はこうした方が良いが子どもが育っていくのは長い目で見なければならず、自分たちには褒められないようなことばかり子どもはやっていくがそれもその子の成長のうちということをお話すと、母親は涙を流してそういうことに気付かなかったという。自分たちの子育ての経験が話せる場があれば、もっとそういう親は精神的に安定すると思うので、この辺のところ自分たちが入っていける部分があるのではないかと思う。</p>
福田哲夫委員	
伊達悦子会長	<p>今の意見は非常に貴重であると思う。自分のところの学生が卒業論文や修士論文で同じことをずっとやっておき、聞き取りでその聞き取りを分析していくということをやりますが、先輩お母さんという言葉がものすごくたくさん出てくる。障害を持っている子どもを持つ方からの聞き取りでは、先輩お母さんの存在がものすごく大きいということが出てくる。もう一方不登校の子どもを持つ親への聞き取りと分析では、一番大きかったのは価値観の転換で、この辺で大きかったのは親の会に入っていた人達であった。セルフヘルプ、誰かが何かをしてくれることも大事だが、自分たちで主体的にやっていくファシリテーターのような人がいてくれる。行政がどうコミットするか非常に微妙な部分であるが、その辺で3番の施策では非常に大切になってくる気がする。この間も6年生の子どもを育てている方と会ったが、サポートファイルを活用していて、そこにいろいろな資料を貼って書き込みをしたりしたものを持っている母親がいたが、単にこういうものがある、利用できるというだけではない何かがあるのだらうと思う。</p>

<p>宇山房子委員</p>	<p>先ほど伊達会長が言っていた、家族が社会に求めることが多いということで、施策・施策の方向性でなにを支援するという言葉が多いので何をするのかなと思うと、基本理念が実現された姿の中に家庭はということの最後に、調和を実現し愛情を持って子育てをしているという風に、愛情を持って親が子育てをしている姿が目に見えると良いのかなと思った。確かに責任をもって子育てをしている人ばかりではなく、社会が何とかしてくれるということで任せすぎではないかと思う。核家族になった上で、大家族の中で我慢することなどができなくて今の若い親は聞く耳を持たないところがあるので、人の話は良く聞いて、年寄りの話も良く聞いて、愛情を持って育てると一言があると良いのかなと思った。</p>
<p>伊達悦子会長</p>	<p>ここがなかなか悩ましいところで、ある保育園の園長先生から聞いた話だが、先生からちょっと言われると押し入れに入ってしまうので、なんだろうと思って母親に聞いてみたら、言うことを聞かないときは叱り押し入れに入れる。そうすると泣き寝入りをするということで、園長先生が母親に子どもは愛されるのが仕事と言ったところ、母親が突然泣き出し、私は愛してくれる人がいなかったと言い、園長先生が私が愛してあげるからと言って、そこから母親と話をする時間をつくったということがあったという。それから自分自身が関わっているケースでも、この子の母親を辞めたいという人がおり、会っているときに最近はどうかという話をすると、最近は本当に自分の息子で良かったという風になり、子どもは嫌がるが抱きしめたいという風に波はあるがなってきた。基本的に愛する力をどう蓄えていくか、引き出していくか、その辺がケースマネジメントであったり、子育て相談の部分であったりというような、ハードはつくれるがソフトをどのくらい視野に入れたハードにするかというあたりかなと思った。</p>
<p>福田智恵委員</p>	<p>P T A連合会の教育課題委員会の会長をしており、その中で保護者が振り返るためのツールをつくり、親がやはり気付きをしていかなければならない。確かに行政がいろいろな施策をしても、並行して親も育っていないといけないのかなと思う。子どもを生んだらすぐその人は親と周りから言われるが、親になるためにも勉強とかあるいは地域社会、小さな社会も核家族化しているからそういったところでも何か困ったときにはどうしたらよいかということが学べずに、親はという風に周りから言われる。でも泣くと周りからは親なのだから何とかしなさいといわれ、困ったことが起こるとお母さん、お父さんしっかりしてくださいといわれ、でも自分たちは悩みを言っていないのかなとい</p>

う社会になっていると思う。それなのでいろいろな子どもに関する施策をしつつも、大きなバックボーンである家庭をどう支えるかということ非常に大きくイメージして進めていく、具体策を出していくということが重要なのかなと思う。基本理念が実現された姿の子どもはという部分は、先ほど加藤委員も言っていたが学校教育との連携が非常に大きくなってくると思う。資料2を見ても、うつのみや人づくりビジョンとも連携していくという図式はあるが、地域学校園等の構想をしていって、学校教育の中でもいろいろと施策が出されていく中で、子どもプランとどのように連携していくのかが見え難いところで心配しているところだが、例えばいろいろな経験をしていく、心豊かでたくましい子どもを育てる環境を整えるとなったときには、宮っ子未来ビジョンの中で宮っ子ステーションとか放課後子ども教室などすべてに関連しており、それらとどのように連携を図っていくのかその部分を心配している。そのように心配しているのは、自分たちが子どもどものときは放課後遊ぶ時間も場所も十分あったし、そういう子どもたちもたくさんいた。でも、今の子どもにはその時間も場所もない。今市の事件以来、子どもたちは見守られて家に帰る。帰った後、家の中で遊ぶ子どもは70%という統計が出ている。家の中で何をするかというとゲームで、関わっているようでも話をしての遊びではなく、今の家庭がいろいろ浮かび上がってきており、いろいろ研究しているところだがそういう子どもたちをどのようにいろいろな活動に呼び出していくのかということになると、一つには極端な話かもしれないが、学校の授業の中で遊びの時間科というのをつくりたいと思う。例えば週の中の放課後5時間目の1時間など自由に遊ぶもので、そこには異年齢交流があり、子供の社会性や存続性は子供同士が関わって遊びの中で育まれるものだと感じているし、そうだと思っている。自分でもそうやって育ってきたと思っているし、宮っ子ステーションは一つの教室であり、地域の方々に教えてもらうという学校の延長である。そうではなく、野放しの状態を学校の教育・授業の中に取り入れられないか、逆に取り入れなければならない社会環境になっているのではないか。大人の責任としてそういう時間をつくらなければ育っていかないのではないかと思う。以前教育委員会に質問したこともあるが、人を育てるというつのみや子どもプラン、子どもを自立させる大きなプランなので、是非そういう視点を組み込んでもらえればと親としても思う。皆さんからも意見をもらいたい。

増田宗夫委員

小学校の方から代表して発言させてもらいたいと思う。施策や理念についてはすばらしいと思うが、30年はかかると思う。というのは、

<p>伊達悦子会長</p>	<p>今この政策・対策をとっていったって、その子どもたちが親になって次の子どものとき初めて花を開く。そのぐらいのスパンを考えてきちんとやっついていかないと、どうにもならないというのが現状だと思う。現在子どもたちは人と関わりを持たないで大人になっている状況である。私の学校は非常に小さな学校なので、昼休みは外に出て思いっきり遊ぶ、また両親が働いている子どもは校庭で走り回って遊んでおり、そういうことが大切だと思う。PTAの活動ということで最初小学校ということだと思うが、最初の段階では母親の視点はものすごく狭く、自分の子どもしか見ていない。それがPTA活動をとおして少し視野が広がっていく。さらにそこから地域の活動にも目を向けていく。先ほど福田委員より話があったが、親自体が育っていく環境をつくっていくことが、一つの非常に大切なことではないかと思っている。やはり一番の家庭というものをどう育てていくか、子どもは家庭の中で育つので親が喧嘩をしていたのではどうにもならない。結婚をするときにどういう家庭をつくるかということに視点をあててもらえばよいのではないか。最近の若い人は、統計的な裏づけは持っていないが、離婚が非常に多いように感じている。どこにしわ寄せが来るかということ、子どもに来ている。どうしてもそういうことがあるので、子どもを育てるという前にどういう家庭をつくっていくかということが一番大切ではないかと思う。わが国は家庭が非常に小さなものになっているので、わがままとかを言うようになってきている。学校でも母親のわがままと認めつつ見方が違うという視点で接していくということで職員が話をしているが、6年ぐらいすると父親・母親音にずいぶん変わってくる。父親も一つの視点として、その関わりというのが大切になってくるのではないかと考える。</p> <p>最近よく身近に聞き、新聞や雑誌でも見るがおやじの会というのがあちらこちらで活躍している。おやじの会に入ること文化の伝承、育児文化の伝承ということが大分あるようだが、そういう一つの例としてPTAがPTAの中で育っていくということであるが、生涯学習であると思う。先ほどの資料3で見ると、1の(3)の若者の社会的自立に向けた支援の推進というところで、セクションとしてどこがやるのかという生涯学習領域なのか、あるいは労働行政のところなのかという風に思ったりする。つまりこれは自分たちも縦割りで捉えてしまうが、縦割りで施策を出すとするそれをまとめていく人が必要になってくる。日本人は受動的なのでこっちにはこういう施策がある、こっちにはこういう施策があるというようにそれを使いこなせる人と全く使いこなせない人とがあって、子どもを殺してしまえというような</p>
---------------	---

	<p>ことが出てきたりということで、この辺のハードルをどう越えていくかということが行政に求められる部分ではないかと思う。それから3番の障害のある子どものところの(2)では、療育と教育と来るがこれらはセクションが異なり、それをどうインテグレートするかという問題がある。あるいは(3)の家族支援の推進で、専門の人が支援するものもあるだろうし、先ほど出た身近な人や先輩が支援するというようなものもあるとなってくると、どこかの行政がこれをやるという発想だとなかなか厳しいかと思う。</p>
福田智恵委員	<p>施策6の妊娠・出産体制を充実しますというところは、産科医を増やすという働きかけを医療機関等にしていくということも入っているのか。</p>
事務局	<p>ここでは産科医を増やすというイメージは持っていない。様々な妊娠出産の妊婦を支えるサービスを充実させるというイメージ。</p>
伊達悦子会長	<p>具体的なイメージは何かあるか。</p>
事務局	<p>妊娠出産に関わるサービスというと、具体的には妊産婦医療費もそうであるし、健診、相談、保健師の訪問など様々なサービスがあり、そういうものを実施していくイメージ。</p>
長谷川英一委員	<p>妊娠出産の支援体制ということで話が出たが、宇都宮市は妊娠している方の健診回数もかなり多く、妊産婦のほうも出産してから6ヶ月以内健診が認められており、かなり充実しているが、先ほども話があったように産科医はかなり減っている。周りでも婦人科は継続しているが、産科はやめるという産婦人科医はかなりいる。その原因は福島県で起きた事件の訴訟問題が産婦人科から先生をみんなやめさせる方向に働いた。健診体制や出産のときの一時金がかかなりのところで直接払いになったりと改善傾向にはあるが、実際そのように健診等を充実しても、いざ産むときになると自分の近くで産むところがない状況がある。まだ宇都宮は良いが、青森などになると自分の市では産めないで他の市に行かなければ出産できないというように、医療体制等は厚生労働省になるがそういう体制づくりをしてしまったので、今訴訟問題で産婦人科や外科になる人がすごく少なくなっているし、小児科も忙しいわりに大変さしかないのでなり手が少ない。というように宇都宮だけの問題ではないが、そのような医療行政の問題があるのでなかなか一貫した政策は難しいかもしれないが、宇都宮がこういう方向</p>

	<p>でいくのであればなるべく途切れない，こういうところは良いが実際産むときになったら産むところがないというものではなく，妊娠しているときには健診も充実しているし産める施設もある。そして出産したら保育所が整備されていて，学校は学校で共働きの人がいても放課後誰かが見ていてくれるというように一貫して見ていかないと現実的ではなく，ここで途切れ途切れになってしまうと，その時はどうするのかとなったときにその答えがないというのが今の現実だと思うので，このように総合的に考えていくとしたら国の政策とかいろいろあるが，宇都宮としてできることがあればなるべく継続性を持ってやってもらいたい。そうでないと，良い政策も生きてこないなのでその辺を考えてもらおうと良い。</p>
伊達悦子会長	<p>20年位前からだが，福祉のまちと呼ばれるところは公立病院を持っているという風に言われた。実際そういうところに行って，聞き取り調査も実施した。栃木県は公立病院をつくらないのかというと，済生会病院があるというが，済生会は済生会である。ということで，その部分をどうカバーするかという問題は，行政施策にかかってくる部分が多いと思う。これは余談かそうでないかは分からないが，教員の研修は宇都宮は中核市なので宇都宮で行うが，県のプログラムを使っても良いということであるようだが，今後そうだとすると市立の特別支援学校はどうなのだろうかということも考えたりする。先ほどから出ているようにつながりのある施策ということになると思うが，生まれたところからずっとつながっていくような施策というか，特別な状態にあるから使うのではなくて，どの家庭もこの子どもの場合も生まれたところから育ち行くプロセスに，いろいろな宇都宮の優れたサービスというか施策が使える，恩恵を受けられるというイメージかと思う。行政だから当然何年計画ということにはなるが，10年経ったら宇都宮市民ではなくなるということにはならないので，将来を見据えた施策ということになるかと思う。とても難しい課題だと思うが，宇都宮が魅力的なまちであるとする，その辺が特色ではないか。</p>
伊達悦子会長	<p>他に何かあるか。非常にイメージしやすい図などを作ってもらい，様々な意見や質問が出たと思う。皆さんから他になければ，協議事項はこれで終わりたい。</p>
伊達悦子会長	<p>6 その他</p> <p>その他ということで，事務局から何かあるか。</p>

事務局	次回の会議の予定だが，12月の下旬を予定している。この中では計画の素案を示したいと考えているので，よろしくお願ひしたい。
伊達悦子会長	<p>委員の皆さんからは何かあるか。今日の様々な意見は，大きな期待を込めての意見だと思う。それを具体化していくのはなかなか難しいことと思うが，宇都宮が良いまちであってほしいと思うのは皆さんの願ひだと思うので，辛口のこともあったかと思うが，次回に反映させて欲しいと思う。忙しい中遅くまでかかったが，御協力感謝する。これで会議を終了したいと思う。</p> <p>(閉会)</p>